

# アイルランドからトラディショナルミュージックの スーパーユニットがやってくる！！

## HEP HALL 提携公演 **Celtic Heart Beat** ORAN コンサート

すでに話題になっているアイリッシュのバンドOran (オラン) の日本ツアー。大阪公演が決定しましたのでご紹介いたします。ミュージシャンの演奏はもちろん、アイリッシュダンスも披露されるという注目のツアーです。



### ミュージシャン紹介



#### アレック・フィン Alec Finn

担当楽器：ブズーキ

アイルランドの国民的アイリッシュ・ミュージック・バンドのデ・ダナンの創設メンバーで、長年デ・ダナンとともに世界中で演奏活動を行い、デ・ダナンのCDや演奏の編曲で重要な役割を果たしてきた。加えて伴奏者、編曲者あるいはプロデューサーとしても活躍。アイルランド音楽及び編曲家として独自の地位を築く。彼の音楽の基礎はアイルランドの伝統音楽だが、ジャズ、ブルース、ロックンロール等の幅広い音楽性も有している。



#### ショーン・ライアン Sean Ryan

担当楽器：ティン・ホイッスル

アイルランドを代表するトップ・ミュージシャンの一人。ショーン・ライアンの名はティン・ホイッスル演奏の代名詞ともなっている。最初の音楽的影響は、地元でダンス音楽を得意としていた父親のフィドル演奏と祖母のコンサートピアノ演奏。70年代にゴールウェイに移った彼はゴールウェイでセッションの豊饒さを満喫した。演奏活動以外では中世の城の修復に多くの時間を割いている。夏にはサマー・スクールの教師としてかつコンサートやセッションで活躍中。



#### カスリーン・ロックナーン Kathleen Loughnane

担当楽器：アイリッシュ・ハーブ

来日公演のため古くからの音楽仲間Alec Finn, Sean Ryan等とOranを結成したDordanのハーブ奏者カスリーン・ロックナーン。今のアイルランドで彼女ほど伝統的アイルランドのハーブの奏法を継承し、様々なダンス曲やオカロランや17-18世紀のハーブ曲を新鮮なアレンジで愛情深く演奏できるハーブ奏者はいないだろう。ダンス曲の優雅な楽しさはアイリッシュ・ダンスの躍動感とセッションの快楽さが思いつき、ラメント&エアの楽しさはアイリッシュ・スピリットが漲っている。



#### コーマック・カノン Cormac Cannon

担当楽器：イリアン・パイプス、ティン・ホイッスル

ゴールウェイの有名な音楽一家の長男。上の世代の多くの著名音楽家達に直接指導を受け、恵まれた音楽環境で育つ。ドルダンのメンバーでアイルランドを代表する屈指のティン・ホイッスル奏者メリー・パーキンの指導のもとティン・ホイッスルを始め、12歳でイリアン・パイプスの巨匠トミー・キーンからの指導のもとイリアン・パイプスを始めた。彼の演奏に特徴的なリリックなリズムの音楽は、絶え間ない豊かな地方の伝統音楽とのふれあいがら生まれたもの。ヨーロッパやアメリカで公演し、アイルランドで定期的に演奏活動している。

### 魂の大地…アイルランド

ヨーロッパの西の果て。そこにはケルトの伝説、妖精伝説を生んだ土地がある…。アイルランド。この国のことを知りたいならば最初に行くとたことといわれたい。パブは酒場というよりは社交場で、昼夜を問わず若者男女がくつろいでいて、どのパブでも、夜になると音楽が奏でられ躍動感と抒情性に溢れる旋律にのせて、ケルト文化は、今もなお伝えられています。文字を持たず口承伝承で詩や音楽（音韻文字）を伝えてきたケルト族の末裔は文学世界に活躍し、バーナード・شو、サミュエル・ベケット、W.B.イェーツ、ジェイマス・ヒューネーと4人ものノーベル文学賞作家を輩出しています。また、「意識の流れ」という独特な手法を生み出したジェームズ・ジョイス、日本で民話を収集した小泉八雲ことラファティオ・ハーンなどが有名。最近では英国ブッカー賞を受賞したロディ・ドイルや、ニール・ジョウダンのように脚光を浴びています。

### ケルト音楽の魅力って何？

東にサンスクリットという古い言語あれば、西のヨーロッパにはケルト語あり。ケルトとはケルトの言葉を読む人々たちという意味で、言語文化集団の名称です。ケルト文化の特徴のひとつは文字を持たないこと。口承文化時代（紀元前～世紀）には詩を高らかに吟ずるフィラ達や、英雄伝の語り手シヤヒナ達は自分達の言葉を流麗な音声言語に開花させて人々を魅了しました。時の変遷とともに、ケルト文化は苦渋に噛み砕かれた時代もありましたが太古の物語や伝承民話のケルトの末裔によって、今でも新鮮に語り継がれています。「Oran」（ケルト語で伝統の歌・曲の意味）の旋律は、心の隅々まで透る音韻文字をわれわれに伝えてくれることでしょう。ケルト音楽の奥は広く、深いもの。また、ケルト音楽への旅は地域・文化への旅でもあります。

**ケルト (Celt) :** 紀元前からヨーロッパに広く居住していた民族で、ローマ帝国の侵襲、ゲルマン民族の圧迫でアイルランド、フランスのブルターニュ、スペインのカリシア地方などに分散した。

### 楽器紹介

#### イリアンパイプス (Uilleann Pipes)

イリアンパイプスはバグパイプの一種です。日本で有名なバグパイプはスコットランドのノーザンプリアンパイプやハイランダーパイプでこれらは口で息を吹き込んで演奏します。これに対してイリアンパイプでは息を動かすことによって空気を送り込みます。Uilleannとは、アイルランドの本来の言葉であるケルト語で「肘」という意味。パイプで音を奏するためにはかなりの熟練が必要で、アイルランドの諺で「イリアンパイプの習得には21年かかる。」と言われているほどです。そして、天上の音楽かと思えるほどの美しさのスローエアやテンポの速いリールも聞く人に魔法をかけてしまうのではないかとこの程の不思議な魅力を持っています。

#### ティン・ホイッスル (Tin Whistle)

ティン・ホイッスル、ペニー・ホイッスルは、アイリッシュ音楽に欠かせないメロディ楽器です。奥の深い楽器ではありますが、お値段がお手ごろで、また音が響き出す楽器です。ティン・ホイッスルはブリキの笛の意、ペニー・ホイッスルは1ペニーで買える笛の意味です。そういった庶民的な楽器なので、手にとってみるとチープな印象を受けるかもしれませんが、立派な民族楽器です。実は、プロフェッショナル・ミュージシャンでも、これらの楽器を使用しています。初心者でも演奏技術を習得していく楽器本来の楽しさにも十分に味わえるので、気軽にトライできます。

#### ブズーキ (Bouzouki)

アイリッシュ・ブズーキは、アイリッシュ音楽で用いられる弦楽器の中で最も特徴的なものです。もともとはギリシャの楽器なのですが、アイリッシュ音楽界のフィクサーのプロデューサーで、度々来日しているドナルド・ラニーが演奏する楽器としてご存知の方も多いことでしょう。アイリッシュ・ブズーキは、ブズーキと言ってもミソンの系譜の楽器で、裏甲が丸いギリシャのブズーキと異なり、裏甲が平らなことが大きな特徴です。でも、なんとと言ってもアレック・フィンの演奏・演奏・アレンジが愉しみです。

#### アイリッシュ・ハーブ (Irish Harp)

アイリッシュ・ハーブはアイルランドの民族楽器で国家の紋章としても使用されるなど、シンボリックな意味をもつ楽器です。中世は小型で金属弦が張ってあるものが伝統的なスタイルで、特にケルトックハーブと呼ばれ、数々の伝説に登場する、人気のある楽器。18世紀末にはトゥアロウ・オカロラン (1670~1738) というハーブが活躍しました。彼は演奏家としての優れた作曲家でもあり、彼の曲は今なお数々の重要なアイリッシュチューンとなっています。今は復興運動により、遠い昔に失われてしまった楽曲・奏法の復刻研究などが行われています。アイリッシュハーブが奏でるケルト音楽は懐かしさを届けてくれます。



太陽が沈む頃には妖精がやまがいのケルトの魂が息づく…不思議の島の物語。

●日時  
2002年12月3日(火) 18:30 開場 19:00 スタート  
2002年12月4日(水) 18:30 開場 19:00 スタート  
(開場は開演の30分前です。受付は18:00より)

●劇場  
HEP HALL 大阪府北区角田町5-15 ヘップファイブ8F  
06-6366-3636  
各線梅田・大阪より徒歩5分

●チケット料金  
前売：2,500円  
当日：3,300円  
全席自由：整理番号付き

●チケット取扱い  
チケットぴあ  
06-6363-9999  
(オペレーター予約)  
06-6363-9966  
(Pコード予約：236-922)

●ヘップホール電話予約  
06-6366-3636  
(11時~17時まで)

●お問い合わせ  
P.J.RECORD  
Osaka, Takatuki, Hiyosidai, 6-29-13.  
0726-87-0726  
090-3629-0897  
e-mail: a293561628@k9.dion.ne.jp

●「Celtic Heart Beat」公式ホームページアドレス  
<http://www.rivverdance.org/irishsteps/oran2002/>  
がんばれOran大阪ツアー&プロデューサー日記は要チェック！！

●企画  
Presented by タムボリン+P.J.RECORD  
Producer: P.J. ALIBABA~  
Stage Composer: 魔人ハンターミツルギ (YUKISHA)  
協力: アイルランド政府観光庁

### ●コンサートはフェスティバル！？

アイルランドを産源地とするケルト音楽ブームが、日本でも本格的に熱気を帯びてきた！アイリッシュ・パブで夜ごと聞かれるコンサートも大盛況。ヒールを片手に、遠い異国のどこか懐かしい旋律に聴き入るファンも増えています。今年は空前のCD発売ラッシュで「ケルト文化園」の新作CDがあまりに多いため、それらを集めた「ケルトック・ミュージック・フェア」も開催されています。

★Celtic Heart Beat「Oran」コンサートではタムボリンが出張店舗を開きます。★ケルト音楽やフォーク、ワールド・ミュージックなど、他では手に入らないCDを販売予定。このチャンスを見過さないで！

「オラン...アイルランドでも滅多に拝めない奇跡の集合体。  
かれらが行くところアイルランドの魂が宿る」

- Maighread Ni Dhomhnaill マイレート・ニ・ゴナール

(名実ともにアイリッシュ・トラッド・シンガーの最高峰と称されている。ドナルド・ラニー・バンドのゲストとして来日。Oran大阪公演にむけて応援のメッセージを頂きました。)

